

区分	2017~2022年度入学生 授業科目名	2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	地 域	ペ ー シ ッ ク	実 践	実 務	備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次											
				前	後	前	後	前	後	前	後										
全 学 共 通 教 育 科 目	地域社会と環境		2	○									野呂 達哉	34	○	○		○			
	地域防災		2	○									鬼頭 浩文	35	○	○	○	○	○	オンデマンド	
	地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2										兼 倉田 英司	36	○	○	○	○			
	民法入門	民法概論	2		○								非 土志田 佳枝	46					○		
	地学概論	地学概論	2	○									非 森 康則	60					○		
	キャリア基礎Ⅰ		②		○								兼 吉山 青翔	65					○		
	キャリア基礎Ⅱ			②		○								兼 岡 良浩	66					○	
														田中 伊知郎							
														樋口 晶子							
														牧田 直子							
														吉山 青翔							
														兼 岩崎 祐子							
	兼 岡 良浩																				
	兼 永井 博																				
	兼 中西 紀夫																				
	非 李 修二																				
	キャリア基礎Ⅲ			2			○							田中 伊知郎	67					○	
														樋口 晶子							
														牧田 直子							
														吉山 青翔							
兼 岩崎 祐子																					
兼 岡 良浩																					
兼 永井 博																					
兼 中西 紀夫																					
非 李 修二																					
ビジネスマナー			2		○							非 長野ゆき子	82					○			
販売士講座			2			○						非 山川 和美	84					○			
ビジネスコミュニケーション			2			○						非 長野ゆき子	85					○			
マーケティング演習			2						○			兼 岩崎 祐子	89	○	○			○			
兼 岡 良浩																					
おもてなし特別講義a			2			○						兼 岩崎 祐子	90	○	○			○			
兼 岡 良浩																					
おもてなし特別講義b			2				○					兼 池田 幹男	91	○	○			○	オンデマンド		
兼 岩崎 祐子																					
メディアツールa	グラフィックツール1		2	○								非 西尾 秀樹	102					○			
メディアツールb	グラフィックツール2		2		○							非 山本 努武	103					○			
メディアツールc			2			○						非 田中 麻衣	104					○			
メディアツールd			2				○					柳澤 翔士	105					○			
Webデザインa			2				○					非 堀内 敬弘	106					○			
Webデザインb			2					○				非 堀内 敬弘	107					○			
インターネット論	ITリテラシー		2			○						柳澤 翔士	110					○			
専 門 教 育 科 目	四日市公害論		2			○							鬼頭 浩文	123	○	○		○			
	千葉 賢																				
	環境保全学		2				○						野呂 達哉	174					○		
	地域環境論	地域連携環境講義	2	○									千葉 賢	178	○	○			○		
	環境エネルギー論		2							○			非 森 康則	179					○		
	資源循環論		2							○			非 村田 静昭	180					○		
	環境社会学		2				○						非 村田 静昭	185					○		
	メディアの歴史	メディア概観	2	○									黒田 淳哉	204					○		
	音楽とまちづくり		2		○								鬼頭 浩文	205	○	○	○	○			
	前川 督雄																				
	コミュニケーションデザイン論		2							○			非 木村 真知子	207					○		
	コンピュータ音楽論		2							○			柳澤 翔士	209					○		
	コンピュータグラフィックス		2							○			非 山本 努武	210					○		
	感性と創造	感性と創造	2		○								黒田 淳哉	212					○		
	表現と思想		2			○							非 木村 真知子	213					○		
	映像概論	映像概論	2			○							柳瀬 元志	214					○		
	照明概論		2			○							黒田 淳哉	215					○		
	音響概論	音響照明概論	2				○						足立 明信	216					○		
	黒田 淳哉																				
	クリエイティブワークI		2				○						柳瀬 元志	217					○		
クリエイティブワークII		2					○					柳瀬 元志	218					○			
イベント制作演習		2							○			黒田 淳哉	219					○			
柳瀬 元志																					
プログラミング		2				○						足立 明信	221					○			
出版文化論		2				○						非 稲葉 年計	230					○			

授業科目名	地域社会と環境		【実務】	科目コード	171305	授業コード	115308
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会，2001」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社，2020」「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会，2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災	【実務】	科目コード	171306	授業コード	115306
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	<p>この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。</p> <p>*5月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって5週分の講義とする。</p> <p>*テキスト・受験料などの実費13,000円が必要です。</p> <p>*防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。</p>					
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。					
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)、第5～10講。 オンデマンド：その他の講義</p> <p>1 4/7 ガイダンス(対面)/補講1；近年の主な自然災害（以下、オンデマンド） 2 4/14 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/21 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災害ボラ/第17講；自主防災 4 4/28 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/12 ★普通救命講習（場所：体育館）*3・4時間目 6 5/13 午前；防災士養成講座（会場研修）① 7 5/20 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/20 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/27 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/27 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/26 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 6/2 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/9 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震・津波への備え 14 6/16 第16講；風水害・土砂災害への備え/補講3；損害保険 15 6/23 第19講；多様性/第21講；防災士に期待される活動/補講4；各種訓練 ★8月5日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥13,000に含まれる。					
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。					
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。					
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。					
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。					

授業科目名	地域連携特別講義 a	【実務】	科目コード	171307	授業コード	116502	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GEC1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですが、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	民法入門	【実務】	科目コード	171410	授業コード	113801	
担当教員	土志田 佳枝		科目ナンバリング	GLAS1010			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。						
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。						
授業計画	<p>予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。</p> <p>1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634</p> <p>参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。</p>						
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。						
成績評価方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。						

授業科目名	地学概論		【実務】	科目コード	171606	授業コード	411101
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。						
到達目標	地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。						
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 地震 第11講 火山 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 地下水 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （遅刻、早退は減点の対象になります） （2）定期試験 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義の最後に小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、積極的な姿勢を期待します。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅰ	【実務】	科目コード	171701	授業コード	111501
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。					
到達目標	以下の3つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 採用試験の基礎知識を習得する。					
授業計画	第1講 ガイダンス/キャリアをどう考えるか 9/25 第2講 課題と実習(社会人基礎力①) 10/2 第3講 課題と実習(社会人基礎力②) 10/9 第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/16 第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/23 第6講 働き方はどうなっているか 10/30 第7講 経営者によるキャリア講演会 11/6 第8講 課題と実習 11/13 第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/20 第10講 働く者の権利 11/27 第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/4 第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/11 第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/18 第14講 キャリアサポートセンターについて 1/15 第15講 まとめ 1/22					
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。					
事前・事後学習	予習: あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習: 講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。					
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%					
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。					
担当者から一言	就職は卒業までに必ず考えなければならない事柄です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ	【実務】	科目コード	171702	授業コード	111103
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。 「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己PRを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。					
到達目標	以下の4つの到達目標があります。 ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。 ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。 ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。 ④ 採用試験の基礎を習得すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス/自己分析のすすめ 4/10 第2講 自己分析実習①適性をみる 4/17 第3講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 4/24 第4講 自己分析実習②過去の自分をふりかえる 5/8 第5講 自己分析実習③他者の意見を聞く 5/15 第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/22 第7講 自己分析実習④未来の自分を考える 5/29 第8講 自己分析実習⑤自己PRを考える 6/5 第9講 知っておきたい採用試験の基礎⑧ 6/12 第10講 業界・企業研究のすすめ 6/19 第11講 企業研究実習 6/26 第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/3 第13講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)① 7/10 第14講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)② 7/17 第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩ 7/24					
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。					
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。					
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%					
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。					
担当者から一言	自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ	【実務】	科目コード	171703	授業コード	111702	
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。						
到達目標	<p>模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。</p> <p>① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること</p> <p>② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること</p> <p>③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること</p> <p>④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと</p> <p>⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス/グループディスカッション①9/25</p> <p>第2講 グループディスカッション②10/2</p> <p>第3講 グループディスカッション③10/9</p> <p>第4講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか10/16</p> <p>第5講 新聞を読む10/23</p> <p>第6講 新聞を読む(実習) 10/30</p> <p>第7講 ビジネスマナー①(面接) 11/6</p> <p>第8講 模擬合同企業説明会11/13</p> <p>第9講 エントリーシートの作成① 11/20</p> <p>第10講 模擬面接(実習) ① 11/27</p> <p>第11講 模擬面接(実習) ② 12/4</p> <p>第12講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応) ① 12/11</p> <p>第13講 プレゼン面接(実習) ② 12/18</p> <p>第14講 プレゼン面接(実習) 1/15</p> <p>第15講 まとめ1/22</p>						
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。						
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。						

授業科目名	ビジネスマナー		【実務】	科目コード	172301	授業コード	115601
担当教員	長野 ゆき子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。</p> <p>ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。</p> <p>そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていくかを学びます。</p> <p>そのうえで、一般的なマナーを学びます。表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手振りといった非言語コミュニケーションも含まれます。</p> <p>この応用としてビジネスマナーがあります。</p> <p>職場内やお客様との間でのさまざまなシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。</p> <p>講師は、実務経験者で企業向けに学外講師を務めている方です。</p>						
到達目標	<p>社会人としてのビジネスマナーを実践的に学ぶことです。</p> <p>① 人間関係づくりを学ぶこと。</p> <p>② 一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。</p> <p>③ シーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。</p>						
授業計画	<p>① 9/29 ガイダンス人間関係づくり① チームワークと価値交流</p> <p>② 10/6 人間関係づくり② コミュニケーションとは</p> <p>③ 10/13 人間関係づくり③ パフォーマンス学</p> <p>④ 10/20 人間関係づくり④-1 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑤ 10/27 人間関係づくり④-2 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑥ 11/3 一般的なマナー①-1 敬語</p> <p>⑦ 11/10 一般的なマナー①-2 敬語</p> <p>⑧ 11/17 一般的なマナー②-1 表情・声・身体表現</p> <p>⑨ 11/24 一般的なマナー②-2 表情・声・身体表現</p> <p>⑩ 12/1 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相</p> <p>⑪ 12/8 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー</p> <p>⑫ 12/15 ビジネスマナー③ 一般文書とビジネス文書 (メールと書類の書き方の違い、封筒の書き方)</p> <p>⑬ 12/22 ビジネスマナー④ プレゼンテーション(グループワーク・発表)</p> <p>⑭ 1/12 ビジネスマナー⑤ クレーム対応(グループワーク・発表) ケーススタディ(場面に応じた対応)</p> <p>⑮ 1/19 ビジネスマナー 総まとめ</p>						
テキスト・教材(参考文献含む)	<p>テキストは以下を使用するので購入すること(購入方法は講義中に別途指示します)。</p> <p>有限会社幸プランニング発行 『コミュニケーション&マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～ 1980円。</p>						
事前・事後学習	<p>予習：毎回テキストをあらかじめ読んでおくこと。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ技術、振り返りの小テストを事後学習すること。</p> <p>留学生はNI向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望ましいです。</p>						
成績評価方法	<p>定期試験50% 参加態度および小テスト50%。</p> <p>小テストは講義の振り返りとして課します。</p> <p>また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。</p> <p>解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして理解度・定着度を確認します。</p>						
担当者から一言	<p>ビジネスマナーは、社会で生きていくための必須の資質です。</p> <p>授業は、外部講師による実践的な講義です。</p> <p>「学生時代に先んじてビジネスマナーを学びたい」と思う学生は、意欲的に是非受講してください。</p>						

授業科目名	販売士講座		【実務】	科目コード	172303	授業コード	114113
担当教員	山川 和美			科目ナンバリング	GSHM1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。						
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。 ● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。 ● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。 						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要 第2講 ストアオペレーションのポイント① 第3講 ストアオペレーションのポイント② 第4講 ストアオペレーションのポイント③ 第5講 小売業の類型のポイント① 第6講 小売業の類型のポイント② 第7講 小売業の類型のポイント③ 第8講 マーチャンダイジングのポイント① 第9講 マーチャンダイジングのポイント② 第10講 販売・経営管理のポイント① 第11講 販売・経営管理のポイント② 第12講 販売・経営管理のポイント③ 第13講 リテールマーケティングのポイント① 第14講 リテールマーケティングのポイント② 第15講 まとめ 定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」カリアック（2019年）						
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点						
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。						
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション	【実務】	科目コード	172304	授業コード	112401																																																												
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1004																																																														
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択																																																											
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。																																																																	
授業のねらい	<p>本科目では、ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして、さまざまな技術を実践的に学んでいただきます。</p> <p>経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。</p> <p>企業人となるためにはこの社会人基礎力が求められます。</p> <p>講義では、とりわけ対顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーションに重点を置いた内容となります。</p> <p>実務経験者で学外の企業研修講師の多彩な話から、企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきます。</p>																																																																	
到達目標	コミュニケーションスキルを実践的に学び 社会で生きるための土台であり必要不可欠である「人間関係作りの基本」を身に付けます。																																																																	
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>①</td> <td>4 / 1 1</td> <td>ガイダンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>4 / 1 8</td> <td>接客マナー「おもてなし」</td> <td>「おもてなしとマナーの違い」</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>4 / 2 5</td> <td>パフォーマンス学</td> <td>場と関わりの自己表現</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>5 / 9</td> <td>おもてなしの接客技術①</td> <td>第一印象</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>5 / 1 6</td> <td>おもてなしの接客技術②</td> <td>接客力</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>5 / 2 3</td> <td>おもてなしの接客技術③</td> <td>電話・レター・メール</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>5 / 3 0</td> <td>おもてなしの接客技術④</td> <td>社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>6 / 6</td> <td>コミュニケーションスキル①</td> <td>心理学TA</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>6 / 1 3</td> <td>コミュニケーションスキル②</td> <td>アサーション</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>6 / 2 0</td> <td>コミュニケーションスキル③</td> <td>コーチングの基本</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>6 / 2 7</td> <td>ビジネススキル①</td> <td>説明力・説得力</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>7 / 4</td> <td>ビジネススキル②</td> <td>合意形成</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>7 / 1 1</td> <td>ビジネススキル③</td> <td>プレゼンテーションⅠ</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>7 / 1 8</td> <td>ビジネススキル④</td> <td>プレゼンテーションⅡ</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>7 / 2 5</td> <td>総復習</td> <td>おもてなしの取り組みとは</td> </tr> </table>						①	4 / 1 1	ガイダンス		②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」	③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象	⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力	⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール	⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」	⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本	⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成	⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは
①	4 / 1 1	ガイダンス																																																																
②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」																																																															
③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																															
④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象																																																															
⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力																																																															
⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール																																																															
⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」																																																															
⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																															
⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																															
⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本																																																															
⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																															
⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成																																																															
⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																															
⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																															
⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは																																																															
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料・プリントを配ります。また、参考図書として、有限会社幸プランニング発行『コミュニケーション&マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～1, 980円を購入することが望ましいです。																																																																	
事前・事後学習	<p>予習：次回の講義内容について出された課題を調べておくことです。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ技術と振り返りの小テストを事後学習することです。</p>																																																																	
成績評価方法	<p>定期試験50% 参加態度および小テスト50%。</p> <p>小テストは、講義の振り返りとして課します。</p> <p>また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。</p>																																																																	
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。 解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。																																																																	
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして 理解度・定着度を確認します。																																																																	
担当者から一言	この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。 オペレーション演習を受講する前提となります。意欲的な学生を期待します。 「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましいです（必須ではありません）。																																																																	

授業科目名	マーケティング演習		【実務】	科目コード	172308	授業コード	111810
担当教員	岡 良浩、岩崎 祐子			科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。</p> <p>マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客のニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング=市場調査と思っても良いでしょう。</p> <p>ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。</p> <p>この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。</p>						
到達目標	<p>到達目標は以下の3点です。</p> <p>①市場調査の一連の技法を身につけること (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)</p> <p>②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること</p> <p>③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マーケティングと市場調査の基礎理解</p> <p>第3回 Microsoft Formsの使い方</p> <p>第4回 Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答</p> <p>第5回 エクセルを使った単純集計</p> <p>第6回 エクセルを使ったクロス集計</p> <p>第7回 報告書の作成</p> <p>第8回 仮設を設定した市場調査の設計</p> <p>第9回 市場調査の実施</p> <p>第10回 市場調査の集計</p> <p>第11回 報告書の作成</p> <p>第12回 報告書の確認</p> <p>第13回 報告書の発表</p> <p>第14回 市場調査の実際</p> <p>第15回 まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。						
事前・事後学習	<p>予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)</p> <p>復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)</p>						
成績評価方法	<p>毎回の課題提出 30%</p> <p>報告書および発表 40%</p> <p>定期試験（レポート試験）30%</p>						
授業内の課題・提出方法	毎回、Moodle内で課題を課し提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、授業内で適宜参照し、コメントします。その都度、理解度を確認しながらすすめます。						
担当者から一言	<p>原則、コンピュータ室で演習を行います。</p> <p>希望者が多数の場合は抽選になることがあります。</p> <p>欠席すると課題がわからなくなるので、欠席しないでください。</p>						

授業科目名	おもてなし特別講義 a		【実務】	科目コード	172309	授業コード	113407
担当教員	岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、サステナブル経営企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 サステナブル経営とは 第3回 外部講師による講義 第4回 外部講師（企業経営者）による講義 第5回 外部講師（企業経営者）による講義 第6回 外部講師（企業経営者）による講義 第7回 授業中レポート 第8回 外部講師（企業経営者）による講義 第9回 外部講師（企業経営者）による講義 第10回 外部講師（企業経営者）による講義 第11回 授業中レポート 第12回 外部講師（企業経営者）による講義 第13回 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 企業レポート作成 第15回 企業レポート発表（プレゼンテーション） 定期試験 第4-6, 8-10, 12, 13回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション ※日程は変更する可能性があります。 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。 参照資料として三重県「三重のサステナブル経営アワード」のホームページを参照してください。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	授業中に作成するレポート（40%）、グループワーク・発表（30%）、定期試験（30%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業中にレポートを作成します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
担当者から一言	ビジネスマナーを重視します。経営者とコミュニケーションをとるため、講演後はグループワークを行ない、経営者に向けて発表を行ないます。多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。						

授業科目名	おもてなし特別講義 b		【実務】	科目コード	172310	授業コード	114815
担当教員	池田 幹男、岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1010		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。						
到達目標	情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。 PowerPoint を利用した短い広告作成を通じて、情報技術のサービス業での応用実践につなげる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「おもてなし」と情報技術 第3講 おもてなしとロボット 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第5講 観光資源としてのロボット 第6講 インターネットとクラウドシステム 第7講 キャッシュレス決済 第8講 ビッグデータ 第9講 AI (音声合成、音声認識) 第10講 AI (対話システム、翻訳、ディープラーニング) 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション						
テキスト・教材 (参考文献含む)	教材は、教育支援システム (Moodle) を通じて呈示します。						
事前・事後学習	観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)						
成績評価方法	授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、最終レポート40%で採点します。定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム(Moodle)でディスカッションを行い、課題、レポートを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム (Moodle) を通じてフィードバックします。						
担当者から一言	この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。						

授業科目名	メディアツールa		【実務】	科目コード	172501	授業コード	115203
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illustratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本操作（何ができるのか解説） 3. 描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 4. 色の基本（CMYK/RGB・面と線 など） 5. 自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 6. 自由曲線2（下絵をトレースして着色） 7. 文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8. その他ツール（グラフ・フィルター など） 9. Webデータと印刷用データについて 10. 画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11. デザインデータ作成時の機能活用について 12. デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13. オリジナル作品作成1 14. オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15. 合評会 						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種でなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールb	【実務】	科目コード	172502	授業コード	115608
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 4.色調整・サイズ調整 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工 10.illustratorとの連動 11.フィルター・その他ツール 12.デザインの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会 					
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールc		【実務】	科目コード	172503	授業コード	112103
担当教員	田中 麻衣			科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。						
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作ができるようになることが目標です。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：色んな種類の映像を楽しむ 第3回：Premiere Pro 「初期設定」 第4回：Premiere Pro 「基本操作1」 第5回：Premiere Pro 「基本操作2」 第6回：Premiere Pro 「応用編1」 第7回：Premiere Pro 「応用編2」 第8回：実習1 第9回：実習1（編集） 第10回：実習2 第11回：実習2 第12回：実習2（編集） 第13回：最終課題制作（企画&撮影） 第14回：最終課題制作（編集） 第15回：最終課題制作（編集）						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布します。						
事前・事後学習	みなさんには映像を制作してもらいます。ですので、どのような映像作品があるか、どのように作品ができているのかを自分なりに考えながら、YoutubeやTVドラマ、CM、映画を一日1本みることを事前準備とします。						
成績評価方法	最終的に一人1作品を制作していただきます。その作品の出来栄と授業に対する意欲、各授業での課題の出来栄などを総合評価し成績を出します						
授業内の課題・提出方法	授業の度に、課題を出します。課題とはどのようなものか例えば、事前学習で見た映像制作に対してのレポートなど。提出は、その日中、または、次の授業までに提出できる課題を出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけでなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。						
担当者から一言	楽しみながら、一緒に学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールd		【実務】	科目コード	172504	授業コード	112605
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>						
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。</p>						
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>						

授業科目名	Webデザインa		【実務】	科目コード	172505	授業コード	111605
担当教員	堀内 敬弘			科目ナンバリング	GSMD1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Illustrator」を主に用いたデザインワークの学習を行います。一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、イラストレーターを用いた簡易的なWebサイトデザイン操作ができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう</p> <p>第2講 Web デザインとは /Web サイトの構造 第3講 実践の準備をしよう / Adobe Illustrator 基本演習 (1) 第4講 Adobe Illustrator 基本演習 (2) 第5講 Adobe Illustrator 基本演習 (3) 第6講 Adobe Illustrator 基本演習 (4) 第7講 Adobe Illustrator 基本演習 (5) 第8講 Adobe Illustrator 基本演習 (6) 第9講 Adobe Illustrator 基本演習 (7) 第10講 Adobe Illustrator 基本演習 (8) 第11講 Adobe Illustrator 基本演習 (9) 第12講 Adobe Illustrator 基本演習 (10) 第13講 Adobe Illustrator 応用演習 (1) 第14講 Adobe Illustrator 応用演習 (2) 第15講 Adobe Illustrator 応用演習 (3)</p>						
テキスト・教材 (参考文献含む)	特になし						
事前・事後学習	毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業時に教える操作方法やショートカットキーの理解度及び受講態度：20% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	本講義はメディアツールaの事前受講が前提となっております。メディアツールaを受講し、よりデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみてください。 先生と一緒にデザインの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。						

授業科目名	Webデザインb	【実務】	科目コード	172506	授業コード	111209
担当教員	堀内 敬弘		科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。					
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。					
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤーフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤーフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし					
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック 					
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼンカ、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません 					
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック					
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>					

授業科目名	インターネット論	【実務】	科目コード	172509	授業コード	112406	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1009			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持つておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	四日市公害論		【実務】	科目コード	371003	授業コード	411308
担当教員	千葉 賢、鬼頭 浩文			科目ナンバリング	EFC2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。						
授業のねらい	四日市公害は日本の四大公害の一つに数えられ、日本の公害対策、環境政策、環境関連法の整備に大きな影響を与えた。コンビナート企業群が引き起こした公害であり、環境問題における共同不法行為が争われたという点で特色を持つ。その後、総量規制という有効な環境対策も生み出され、排水・排気ガス・振動・騒音などの問題が大きく軽減されてきた歴史を持つ。このような四日市公害を学び、公害当時に人々がどのように行動したのかを知り、自分の立場に置き換えながら、今後の環境問題への教訓と知識と心構えを受講者が得られるようにする。						
到達目標	①環境情報学部で学ぶ学生として、四日市公害について語るができるようになる。 ②四日市公害の歴史と背景についての知識を深める。 ③現代の環境問題等の社会問題を多角的に捉える視点を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 千葉 第2講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉 第3講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉 第4講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉 第5講 技術的側面から見た四日市公害 千葉 第6講 ここまでのまとめとフィールドワークのガイダンス 千葉 第7～10講 四日市公害と環境未来館でのフィールドワーク 鬼頭 フィールドワークにどうしても参加できない人には課題を与えますので、第11講までに同館にて各自で学習してください。 第11講 フィールドワークの振り返り学習 鬼頭 第12講 四日市公害から得られた教訓（資料調査とグループディスカッション） 第13講 四日市公害から得られた教訓（資料調査とグループディスカッション） 第14講 四日市公害から得られた教訓（グループディスカッションと発表） 第15講 まとめと試験範囲の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、ミニレポートを作成して提出させる。1回3点満点×8回＝24点（優秀レポートには加点する）。フィールドワークの振り返りテスト21点。レポートを採点してフィードバックする。グループディスカッションへの参加姿勢15点満点。期末試験40点満点。						
授業内の課題・提出方法	教員の配布する課題の用紙を提出するか、Moodleで提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を評価して学生に返却する。Moodleを利用する場合もある。						
担当者から一言	経済発展の過程で必ず発生する環境問題と、その改善への人々の様々な取り組みについて、四日市公害の事例から学んでください。悲惨な経験をされた患者さんたちの話も出てきます。真剣に授業に取り組むことを求めます。						

授業科目名	環境保全学		【実務】	科目コード	371203	授業コード	413807
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境変化の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します						

授業科目名	地域環境論		【実務】	科目コード	371207	授業コード	415206
担当教員	千葉 賢			科目ナンバリング	EEP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	<p>(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)</p> <p>第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉</p> <p>第2講 四日市市の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第3講 三重県の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉</p> <p>第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師)</p> <p>第6講 SDGsとESD、(外部講師)</p> <p>第7講 SDGsと食品ロス、(外部講師)</p> <p>第8講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師)</p> <p>第9講 四日市市周辺の自然環境、(外部講師)</p> <p>第10講 企業と環境対策(外部講師)</p> <p>第11講 三重県の林業と今後、(外部講師)</p> <p>第12講 四日市における地域農業の展開、(外部講師)</p> <p>第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、(外部講師)</p> <p>第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師)</p> <p>第15講 伊勢湾の水質環境、千葉</p>						
テキスト・教材(参考文献含む)	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	上記の通り						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	上記の通り						
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様へ感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	環境エネルギー論		【実務】	科目コード	371208	授業コード	416501
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	ENE3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	現代の生活になくしてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、カーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーなどについても、その原理や課題について学びます。講義の最後には、将来の日本が、どのような電源構成が理想形として望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーとは何か、その歴史的背景を理解する。 ・エネルギー技術の原理について、理解する。 ・再生可能エネルギー、新エネルギーとは何かを理解する。 ・将来的なエネルギー問題について関心を持つことができる。 						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス・エネルギーとは 第2講 エネルギー論の基礎 第3講 エネルギーの歴史 第4講 火力発電1 第5講 火力発電2 第6講 原子力発電1 第7講 原子力発電2 第8講 再生可能エネルギー1 第9講 再生可能エネルギー2 第10～15講 施設見学・グループワーク等</p> <p>2023年12月中～下旬の週末（土日）に、四日市市近辺の施設で開講予定です。 現時点では、2023年12月16日（土）、12月17日（日）、12月24日（日）の3日間（全日）開講の予定です。</p> <p>基本的に開講場所での現地集合、現地解散となりますので、若干の費用あるいは交通手段が必要になる場合があります。</p> <p>開講日時・場所は、履修登録人数等によって変更の可能性がありますので、確定後、履修登録者に履修申告時の9月下旬にアナウンスします。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	（1）講義中における小テスト 20点×3日=60点 （2）レポート課題 40点						
授業内の課題・提出方法	講義の各日で小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。						
担当者から一言	3日間の集中講義になります。受講生には、エネルギー問題に関係する施設見学などを通じて、大学の中だけでは得られない様々な刺激を感じていただきたいと考えています。						

授業科目名	資源循環論	【実務】	科目コード	371209	授業コード	415502
担当教員	村田 静昭		科目ナンバリング	ENE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・品質・加工・貯蔵・利用・廃棄・自然界での循環とそれらに関わる諸問題を、地域（自身の生活圏）から地球規模レベルに至るさまざまな視点で学ぶことにより、持続的な資源の活用や生活の向上に関係するさまざまなSDGs活動の目標や課題の達成について理解し、社会・地域を持続的に維持発展させていくための知識や考え方を学びます。					
到達目標	我々の生活・社会を支えている資源とその品質について理解する。 資源の獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄という一連の流れと付随する問題を理解する。 物質収支・物質循環の基礎について理解する。 SDGsの目標から資源利用と物質循環が関わる問題を整理する。 都市や地域の生活における安全・安心と持続的な資源利用について理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス 資源とは何か 第2講 基幹資源の獲得 第3講 資源の品質 第4講 資源の加工・貯蔵 第5講 資源の利用・廃棄 第6講 自然界における物質循環 第7講 資源利用と環境負荷 第8講 再生可能資源と問題 第9講 再生可能資源利用の限界 第10講 廃棄物と廃棄物処理 第11講 3R (Reduce, Reuse, Recycle) 第12講 リサイクルとそれに伴う諸問題 第13講 持続可能な都市のデザイン 第14講 授業に関連するSDGsの目標と取り組み 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ＝シュマルケル著、蔵持不三也訳 原書房 2022年					
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中に内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。					
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出 50% 定期試験 50%					
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。					
担当者から一言	SDGsに取り組んでいく上での重要なベースとなる授業です。関連してCSRの重要性についても言及します。本学の取り組みはホームページで確かめてください。高等学校の理科（化学・物理・生物）の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問するようにしてください。					

授業科目名	環境社会学	【実務】	科目コード	371214	授業コード	415607
担当教員	村田 静昭		科目ナンバリング	EEP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	人類は、優れた科学技術を生み出し大量の資源とエネルギーを使うことで、今ある安全・快適・便利な生活を享受してきました。しかしこのような光に照らされた繁栄に対する闇の側面として、自らが地球に働きかけた結果として生じた環境破壊が未来に深刻な影を落ととしています。授業では現在も継続・複雑化している環境破壊について学び、被害の軽減と新たな発生を防ぎ繁栄を持続・拡大させていくための知識を学びます。					
到達目標	公害を始めとする環境破壊の歴史（原因・広がり・加害者/被害者などの変遷）を知る。環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。 現在進行中で今後も拡大し得る環境破壊について回復と抑制を考察する。 より良い生活の獲得といった視点から環境破壊と開発とのバランスを考察する。 新たな環境破壊の発生について考え、未然抑止に必要な知識やプロセスを考察する。					
授業計画	第1講 ガイダンス（快適な環境とはどのようなものか） 第2講 環境破壊の歴史1 公害の発生源・被害とその変遷 第3講 環境破壊の歴史2 公害の背景にある時代的・社会的背景とその変遷 第4講 環境破壊の歴史3 ローカルからグローバルへと被害の拡大と変遷 第5講 環境破壊の歴史4 時間と世代を超えた被害の拡大 第6講 人類生存の脅威1 淡水の確保 第7講 人類生存の脅威2 疾病との戦いと薬 第8講 人類生存の脅威3 食料と農業 第9講 人類生存の脅威4 気候変動 第10講 便利で安全な生活を支える新材料1 有機塩素化合物 第11講 便利で安全な生活を支える新材料2 合成樹脂・合成繊維 第12講 科学技術の光と闇 第13講 未来への責任1 地球温暖化との戦い 第14講 未来への責任2 使う責任/使わない責任 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ=シュマルケル著、蔵持不三也訳 原書房 2022年					
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。					
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出 50%・・・授業中に解説します 定期試験 50%・・・終了後講評します					
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。					
担当者から一言	四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化している環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。関連してSDGsやCSRについても言及します。授業では高等学校における化学・物理・生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問してください。					

授業科目名	メディアの歴史	【実務】	科目コード	371304	授業コード	415310	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EMS2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識を習得して、独自の視点で情報発信ができる						
授業のねらい	テレビやラジオ、新聞といった従来のメディアは、インターネットの普及後、SNSなどのインターネットメディアが誕生することで多様化してきました。さらには、人工知能（AI）やVR技術をはじめとするテクノロジーの急速な進化によって人々の情報伝達やコミュニケーションも進化・変化を続けています。本講義は、文字の発明から現在のメディア社会に至るまで、メディアの歴史を学ぶと同時に、これからのメディアと私たちの未来を展望します。						
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのか？また、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったか？など、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げることが本講義の最も重要なポイントです。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 文字 第3講 印刷 第4講 ラジオ 第5講 写真 第6講 映画 第7講 プロパガンダ 第8講 テレビ 第9講 モバイルデバイス 第10講 コンテンツメディア 第11講 デジタルコンテンツ 第12講 メディアと芸能 第13講 現在のメディア社会 第14講 メディアと人々のつながり 第15講 情報社会とインターネット 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小テスト及び課題（40%）、定期試験（60%） なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	音楽とまちづくり	【実務】	科目コード	371306	授業コード	414501
担当教員	鬼頭 浩文、前川 督雄		科目ナンバリング	EMS2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。					
到達目標	音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。					
授業計画	<p>第1講 (9/28) ガイダンス (鬼頭・前川)</p> <p>第2講 (10/5) JAZZフェスとまちづくり (実行委員長柳川さん) ①</p> <p>第3講 (10/12) イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ (実行委員会 山川さん、鬼頭・前川) ② (10/19は休みです)</p> <p>第4～6講 (10/21) 現地実習 (イベントの見学・スタッフ参加を3コマとしてカウント)</p> <p>第7～10講 (10/22) 現地実習 (イベントにスタッフとして参加=4コマとしてカウント)</p> <p>第11講 (10/26) 四日市JAZZフェスティバルの会場設営 (実行委員会 堀木さん) ③</p> <p>第12講 (11/2) 四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛 (実行委員会 阪さん) ④</p> <p>第13講 (11/9) 四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア (実行委員会 山川さん) ⑤</p> <p>第14・15講 (11/16・23) 人間と音、まつりによる伝統的共同体の組織化、環境音とまちづくりの内容を2コマで (前川) ⑥⑦ (11/30以降は予備日)</p> <p>定期試験 (レポート提出) ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を見て注意するようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。</p>					
テキスト・教材 (参考文献含む)	JAZZフェスのパンフレットと配布資料					
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、7回の小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。					
成績評価方法	現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40% (①～⑦)、定期試験 (レポート) 30%で総合評価する。					
授業内の課題・提出方法	7回の課題を提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントを学生に返す					
担当者から一言	最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。					

授業科目名	コミュニケーションデザイン論 【実務】	科目コード	371309	授業コード	414608
担当教員	木村 眞知子	科目ナンバリング	EMS3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	近年、「広告」は単に何かを“広告”するだけでなく、コンサルタント業務から商品企画まで、その領域は拡大し「コミュニケーションデザイン」という捉え方が、今の「広告」に最も近いと言えます。 多くの企業が様々なメッセージを発信し続け、そのメッセージは時には私たちの暮らしや考え方にも影響を与えています。それを仕掛ける「コミュニケーションデザイン」の現場の様々な活動を実践的に学ぶことで、今という時代を、社会を見つめます。				
到達目標	「広告」を本来の姿である「コミュニケーションデザイン」ととらえると、その企業について別の見方が出来るようになります。「コミュニケーションデザイン」という切り口で様々なモノを様々な角度から見つめる姿勢をもつことを目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス コミュニケーションデザインとは何か 第2講 広告の始まり・広告の役割 第3講 広告とコミュニケーション 第4講 広告と消費者 第5講 広告とマーケティング 第6講 コミュニケーションデザインの実践1——製品企画&販促企画 第7講 コミュニケーションデザインの実践1——製品企画発表（プレゼンテーション） 第8講 ブランディング 第9講 コミュニケーションデザインの実践2——ブランド研究発表（プレゼンテーション） 第10講 企業メッセージ 第11講 コミュニケーションデザインの実践3——コピーライティング（プレゼンテーション） 第12講 広告と政治 第13講 CMから今を考える——カンヌライオンズ&ACC賞 第14講 広告表現と多様性 第15講 コミュニケーションデザイン——今日から明日へ 課題に向けて				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。				
事前・事後学習	様々な課題について考察し発表してもらうことが多々あり、それへの取組みを事前学習とします。そのため、毎日30分以上、看板やポスター、CM、ちらしなど、身の回りの様々なコミュニケーションデザイン（広告）の作品に注目し、その傾向などの分析をすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。				
成績評価方法	成績評価は次の通りとします。 授業への取組み姿勢：30% 課題：30% 試験に代わる課題レポート：40%				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業でレポートや課題を提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメント等、対応していきます。				
担当者から一言	コミュニケーションデザイン（広告）について、単に知識を得るのではなく、事例をもとにした様々な課題に取り組んでもらいます。 発信側、受信側の中間にある「コミュニケーションデザイン」、その立ち位置から自分の目で両者をしっかり見てください。今の日本、今の世界が見えてくるかもしれません。				

授業科目名	コンピュータ音楽論	【実務】	科目コード	371311	授業コード	414201	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EMS3003			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、コンピュータによる作品制作時において、オリジナルの音を創作し、音作品や映像作品に行かせる知識と技術について座学と実習で学ぶ。						
到達目標	コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせる、シンセサイザー音のeditや、録音素材の加工技術を習得することを目指す。						
授業計画	<p>・講義ではMac(Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータ音楽とMIDI 3.音楽を聴きこむ 4.作品を作るという事とは 5.デジタル信号処理・メディアの変容 6.エフェクターの基礎※ 7.シンセサイザーの仕組みと音作り1※ 8.シンセサイザーの仕組みと音作り2※ 9.Vocalの録音と処理1※ 10.Vocalの録音と処理2※ 11.効果音を作る※ 12.サンプリングとは1※ 13.サンプリングとは2※ 14.音作品制作1※ 15.音作品制作2※ <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	※必ずUSBメモリーや外付けSSD等を用意する事。(16GB以上 USB3.0規格推奨) テキストは適時配布。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Macのある教室(5201)が空いている時に、授業時間内にできなかった課題を進めたり、操作予習をしてMacの操作を理解しておくこと(90分) 日ごろから音楽に触れておくことで実習の際のアイデアを作っておくこと(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(授業中の課題状況、受講態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業時間外は、Moodleやメールにて提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なもので、当日中に講評できるものは当日授業中に講評。 基本的には翌週に講評を行う。 質問などのフィードバックはその都度行う。						
担当者から一言	本講義で応用的なサウンドメイクを学び、製作作品にさらなるオリジナリティを与えられるようになります。 メディアツールD受講後の履修が一番スムーズに理解に繋がります。 共に音を学びましょう。 ※20名の受講制限あり。初回授業で抽選をするので欠席・遅刻をしないように。						

授業科目名	コンピュータグラフィックス	【実務】	科目コード	371312	授業コード	411811	
担当教員	山本 努武		科目ナンバリング	EMS3004			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの定番ソフトウェア、Adobe After Effectsの基本操作を習得しながら、短編映像作品を制作します。毎回サンプルデータを用いて操作方法や効果を説明し、それを元に各自が工夫して習作を制作します。						
到達目標	After Effectsの習得を通して、CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの基礎を身につけ、多様な映像表現能力を獲得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 0. オリエンテーションとキーフレームアニメーション 1. 多層的なキーフレームアニメーション 2. シーケンシャルアニメーション 3. 関節アニメーション 4. 3Dレイヤーアニメーション 5. 動画素材を使ったエフェクト1 6. 動画素材を使ったエフェクト2 7. クロマキー合成入門 8. マッチムーブアニメーション1 9. マッチムーブアニメーション2 10. 作品企画、絵コンテ作成 11. 作品企画、素材準備、制作 12. 作品制作 13. 作品制作 14. 作品鑑賞会 						
テキスト・教材（参考文献含む）	教員が用意します。						
事前・事後学習	この授業ではAdobe PhotoshopやIllustratorも併用しながら進行しますので、メディアツールa, b, cの受講を強く勧めます。						
成績評価方法	授業姿勢：80% 作品課題：20%						
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。						
担当者から一言	After EffectsはAdobe Creative Cloudの中でも難易度の高いソフトウェアのひとつですが、習得することによって映像表現の幅がグンと広がります。是非積極的に取り組んでください。						

授業科目名	感性と創造		【実務】	科目コード	371314	授業コード	415606
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS文化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	①メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ②作品の完成に向け建設的な取り組みができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 写真を読む 第3講 写真を撮る 第4講 発表～ディスカッション 第5講 作品鑑賞～分析 第6講 映像の構成について 第7講 ストップモーションムービー(構成) 第8講 ストップモーションムービー(撮影1) 第9講 ストップモーションムービー(撮影2) 第10講 ストップモーションムービー(編集1) 第11講 ストップモーションムービー(編集2) 第12講 発表～ディスカッション 第13講 作品鑑賞～分析 第14講 AIで作品づくり 第15講 発表～まとめ						
テキスト・教材(参考文献含む)	なし。(必要に応じてプリントを配布します)						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること(90分)。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと(90分)。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	表現と思想		【実務】	科目コード	371315	授業コード	414202
担当教員	木村 眞知子			科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	常に変化し進化するメディア環境の中、情報の送り手、受け手という構造は崩れ、「誰でもメディア」の時代になってしまいました。そんな今こそ、コミュニケーションとは何かを問い直し、自分自身を表現することの意味を考えなければなりません。 時代を読み解き人間を深く探ろうとしたこれまでの思想家たちの考えを学び、私たちの今を生きる力、表現する力を養います。授業に沿った課題とその発表に重きをおいています。特に、詩作する課題は最終週に作品発表として「詩のボクシング」を行います。						
到達目標	考えること、言葉を発すること、行動すること...すべて自分を表現することです。自分自身が発信者であることを自覚し、自己表現できる存在となることを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス メディアコミュニケーションの今 第2講 コミュニケーションの領域 第3講 身体メディアである自分の確認（プレゼンテーション） 第4講 ポスト構造主義——今という時代を見つめる 第5講 言語とは何か①伝えるために 言語と非言語（プレゼンテーション） 第6講 言語とは何か②表現するために 記号論 第7講 詩をよむ・詩をかく（プレゼンテーション） 第8講 詩とコピー 第9講 考えるということ・意見を持つということ（ディベート） 第10講 メッセージソング（プレゼンテーション） 第11講 物語を組み立てる 第12講 みんなで作るモノガタリ（プレゼンテーション） 第13講 詩作を巡って——書くこと・推敲すること 第14講 ワークショップ 第15講 「詩のボクシング」作品発表（プレゼンテーション） 自らを表現することの意味とは——課題に向けて						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。						
事前・事後学習	授業の中で様々なテーマの課題を出します。その課題に取り組むためには、1日最低30分程度、詩や小説、エッセイなどを読むこと、また音楽なども聴くこと。そして、その感想を文章でまとめるなど、言語化できるようにすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。						
成績評価方法	成績評価は次の通りとします。 授業への取組み姿勢：30% 課題への取組み姿勢：30% 試験に代わる課題レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業でレポートや課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメント等、対応していきます。						
担当者から一言	本授業は、講義だけでなく、詩作など様々な形で自分を見つめ表現することに取り組み、それを人前で発表するなど、実践的な学びの場面が多々あります。苦手だからといって特別扱いはしません。チャレンジする気持ちで受けてください。						

授業科目名	映像概論		【実務】	科目コード	371316	授業コード	413408
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に、様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて、映像のリアルを学びます。						
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが晴れるようになる。 ②授業を通じて、一通りの映像制作のノウハウを学び、スキル向上させる						
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 みんなのGWを見てみよう ～プレゼン大会～ 第5講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第6講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第7講 映像の新しい可能性 ～Gopro/ドローン操作演習～ 第8講 報道記者になった留学生 ～モンゴルから来た学生が報道記者になるまで～ 第9講 映像ビブリオバトル① 第10講 映像ビブリオバトル② 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 落語が描く脳内映像 第14講 放送と配信 第15講 絵コンテを描こう ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、テキストや資料を配布						
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。 見ることすなわち学習です。 さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換し、それを実作業に落とし込む練習を積んでください。 とにかく、よく見てよく読む。 これが映像制作の事前・事後学習です。						
成績評価方法	授業への取り組む姿勢：30% 課題への取り組み：30% 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで、最も効率よく提出できる方法を、課題ごとに選択します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。						
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。						

授業科目名	照明概論	【実務】	科目コード	371317	授業コード	415207	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESP2004			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	照明と我々の生活は切り離すことのできない関係にあります。光は我々に視覚を与えるだけでなく、快適な空間の演出や、物を印象的に見せるなど、様々な力があります。この講義では光の性質を知ることから始まり、照明演出の基礎知識や技術までを広く学びます。						
到達目標	①光の性質を理解する。 ②暮らしと照明の関係について理解する。 ③光を使用した演出方法や、その為の知識を習得する。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 光源 第3講 光環境 第4講 光の単位と電気の基礎 第5講 視覚と照明 第6講 色彩と照明 第7講 色温度と演色性 第8講 光と素材の関係 第9講 照明配光と陰影効果 第10講 映像照明1 第11講 映像照明2 第12講 舞台照明1 第13講 舞台照明2 第14講 光のコントロール 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	音響概論	【実務】	科目コード	371318	授業コード	413810	
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	ESP2005			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	現在の舞台芸術やメディアコンテンツの制作は、専門的な技術を駆使しています。メディア表現において、技術を使いこなすことは重要な要素ですが、その前に基礎を理解することで、多様なメディア分野に適応することができます。本講義では、音響と照明に関するそれぞれの基礎知識や効果、理論について広く学びます。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとって、この講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。						
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識、また、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気の基礎」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	クリエイティブワークⅠ	【実務】	科目コード	371319	授業コード	413809
担当教員	柳瀬 元志		科目ナンバリング	ESP3001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	<p>プロが現場で使用する機材を使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を行うラジオCM制作などを行います。</p> <p>まずは映像・音響・照明などの基礎を学び、それらを実際の作品作りに落とし込んでいく過程を学び、自らのものとするを狙いとします。</p> <p>これまで以上に「書く」こと（企画書・脚本など）を重視します。</p> <p>また、どのような現場でも要求される「プレゼンテーション」の場を数多く設け、人前で自分の考えや表現したいことなどを的確に、わかりやすく伝える練習を行います。</p>					
到達目標	プロの方法論による作品制作の実習・演習を通じて、ものづくりの楽しさやむつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。					
授業計画	<p>第1講 ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～</p> <p>第2講 照明基礎</p> <p>第3講 照明実習</p> <p>第4講 照明作品プレゼンテーション</p> <p>第5講 音響作品 ラジオCM 企画・原稿作成</p> <p>第6講 音響作品 ラジオCM 録音</p> <p>第7講 音響作品 ラジオCM 整音</p> <p>第8講 音響作品 ラジオCM 発表プレゼンテーション</p> <p>第9講 映像企画書</p> <p>第10講 映像脚本</p> <p>第11講 撮影基礎① 機材の扱い方</p> <p>第12講 撮影基礎② 撮影実習</p> <p>第13講 撮影①</p> <p>第14講 撮影②</p> <p>第15講 映像制作作品プレゼンテーション</p> <p>※授業の進捗状況により、内容の前後、入れ替えがあります</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリント・資料を配布					
事前・事後学習	日々メディアを通して、話題となっている番組、映画、書籍、音楽、ゲーム、舞台など作品制作に参考となるものをどん欲に吸収することを心がけてください。 スキルアップの鍵は自分自身が握っています。					
成績評価方法	<p>授業・課題への取り組み：30%</p> <p>課題政策への意欲・取り組む姿勢：30%</p> <p>作品の内容・完成度：20%</p> <p>試験に代わる課題もしくはレポート：20%</p>					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します 提出方法は教員への手渡しその他、その都度指示					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバック、もしくはプレゼンテーション等による合評					
担当者から一言	<p>ものづくりのいろは（ABC）を学びます。</p> <p>ここでしっかりと基本的なことを学んで、各自が先行する分野のスキルアップに役立ててください。</p> <p>また様々なものに触れ、自分自身のレベル&スキルアップに励んでください。</p> <p>チームで作品制作を行うので、遅刻欠席は厳禁です</p>					

授業科目名	クリエイティブワークⅡ	【実務】	科目コード	371320	授業コード	413107
担当教員	柳瀬 元志		科目ナンバリング	ESP3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	演習・制作を軸とする授業で、映像・音響・照明を学びながら作品を作ります。 講義、演習、プレゼンテーションを通じて、2年次よりもさらにレベルアップした表現方法や知識、技術を習得する。 作品制作を体験することで、様々なものづくりやクリエイティブの本質に触れ「何を表現し、どのように個性を出すか」など、クリエイターとしての知識や感性を磨き上げていきます。					
到達目標	クリエイティブワークにおける三大要素「映像」「音声」「照明」の各分野を、作品制作の経験を通して特性を理解し、身につけることを目標とします。 また第三者が見て「納得」と「満足」のいく作品を作り上げることができる人材となることを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス ～実践的クリエイティブワークとは～ 第2講 作品制作に向けて企画書作成 第3講 作品制作に向けて企画書作成&プレゼンテーション 第4講 構成案づくり 第5講 構成案づくり 第6講 音響演習 第7講 照明演習 第8講 撮影演習 第9講 撮影実習 第10講 撮影実習 第11講 撮影実習・編集作業 第12講 編集作業 第13講 MA 第14講 ナレーション収録 第15講 合評 ※授業の進捗状況により、内容の入れ替えや変更があります					
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、テキスト・資料等を配布します。					
事前・事後学習	作品制作の成功の可否は、事前準備や情報収集によるところ大です。 毎日の生活の中に、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活とクリエイティブが密接な関係を持っていることが大切です。 感性を磨き、一般的な科目の予習復習とは違う、生活レベルでの事前事後学習を心がけてください。					
成績評価方法	授業への取り組み：40% 課題への取り組み：40% 試験に代わる課題レポート：20%					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて、授業内で課題を出します。 提出は担当教員への手渡し、MOODLEなど					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	評価、採点し成績に反映、もしくは返却					
担当者から一言	映像・音響・照明のクリエイティブ3大要素を学びます。 その中で作る楽しさ、大変さ、完成させる喜びを体験してほしいと思います。 共同制作が多くなるので、遅刻・欠席はできません。 「クリエイティブワークⅠ」を受講していることが望ましいです。					

授業科目名	イベント制作演習		【実務】	科目コード	371322	授業コード	413507
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESP3004		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。 						
授業のねらい	この講義のターゲットは、メディア情報分野の4年生が卒業研究・制作を発表する卒業展を制作することです。その中で、イベントの制作に関する知識や技術、取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的としています。演習の前半には、イベント制作に関する座学を行い、イベント企画の演習を行います。後半には、全員で共同して卒業展を制作します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。 ②満足度の高いイベントなるようチームで考え、実現に向けた自発的行動ができる。 ③プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見することができる。 						
授業計画	第1講 ガイダンス～イベント制作立案1 第2講 イベント制作立案2 第3講 イベント制作立案3 第4講 卒業展について1（企画立案） 第5講 卒業展について2（資料制作） 第6講 卒業展について3（ディスカッション） 第7講 昨年度実績伝達 第8講 進行演出立案1 第9講 進行演出立案2（プレゼンテーション） 第10講 部門ごとの準備1（グループワーク） 第11講 部門ごとの準備2（グループワーク） 第12講 メディアチェック 第13講 テクニカルリハーサル 第14講 最終リハーサル（実習） 第15講 卒業展（実習）						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義中に資料やワークシートを配布します。配布資料が多いため、専用のファイルを準備してください。						
事前・事後学習	年未年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となります（180分程度）。						
成績評価方法	ループリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席や遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	本講義の殆どは、課題に向けて取り組む制作です。取り組んだ課題は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題は、講義内の発表時に講評を行います。						
担当者から一言	卒業展当日までグループワークで制作を進めていきますので、特別な理由以外は講義を休まないで下さい。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	プログラミング		【実務】	科目コード	371324	授業コード	412613
担当教員	足立 明信			科目ナンバリング	EIF2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	<p>ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、C言語はオペレーティングシステムから携帯電話など末端の応用プログラムまで、広い範囲で使用されています。このC言語を学ぶことで、アプリケーション・プログラムの動作をより理解することができます。</p> <p>この講義では、C言語を用いてプログラミングの基礎を学び、アプリケーション・プログラムの動作の理解を深めると同時に、プログラム作成と通じて、論理的思考を身につけることを目指しています。</p>						
到達目標	C言語で基本的なプログラミングができるようになること。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、プログラミングとは</p> <p>第2講 Cプログラムの入力・コンパイル・実行</p> <p>第3講 変数・定数とデータ型と演算子</p> <p>第4講 入力と出力</p> <p>第5講 ifによる条件分岐</p> <p>第6講 switchによる分岐</p> <p>第7講 forによる繰り返し</p> <p>第8講 whileによる繰り返し</p> <p>第9講 関数（1）</p> <p>第10講 関数（2）</p> <p>第11講 配列</p> <p>第12講 ポインタ</p> <p>第13講 構造体</p> <p>第14講 共用体</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>（講義の順番・内容を変更することがあります。第9講以降の内容は、進度に応じて概略の講義となる場合があります）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストはありません。必要に応じて資料を配布します。</p> <p>詳しく学びたい人のために、参考文献として次の書籍を推薦します。</p> <p>B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著 石田晴久 訳「プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠」 共立出版 ¥3,024</p>						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、演習問題を行うこと（120分）						
成績評価方法	「提出物」（40%）、「定期試験」（60%）						
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を示し、教育支援システム（Moodle）に提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は採点后、教育支援システム（Moodle）を介して返却します。課題の個別指導を行います。						
担当者から一言	プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。 「ソフトウェア論」を履修していることが望ましい。						

授業科目名	出版文化論		【実務】	科目コード	371407	授業コード	412402
担当教員	稲葉 年計			科目ナンバリング	ECF2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	<p>本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。</p> <p>時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。</p>						
到達目標	<p>全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。</p> <p>文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。</p> <p>できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業では出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 1960年代の文学の展開（松本清張・三島由紀夫）——全体性の喪失—— 3. 三島由紀夫『美しい星』 4. 三島由紀夫『美しい星』 5. 東浩紀『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』 6. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 7. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 8. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 9. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 10. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 11. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 12. 小さな出版社の作り方 13. 高畑 勲『かくや姫の物語』 14. 高畑 勲『かくや姫の物語』 15. 全講義のまとめ <p>定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>（テキスト）宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房（2011年）定価：902円</p> <p>各講義において、PowerPoint資料を提示、プリントを配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>本や小説、映画、漫画、ドラマ等により時事的なニュースや社会に触れること。（80分）</p> <p>授業後には配布資料に目を通し復習すること。（10分）</p>						
成績評価方法	<p>成績評価は、授業への参加度40%、定期試験（レポート）60%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>出席カード裏で、毎回の課題（感想や意見）を提出してもらいます。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）について、次の回の授業の冒頭で質問があれば回答し、また良いもの面白いものなどがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思えます。</p>						
担当者から一言	<p>できる限り関心が持てるように工夫をした授業となりますが、内容自体はそれなりに高度な内容を含むものです。よって、やる気がある学生を歓迎します。また授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるように設定しています。なお、コピー&ペーストは厳禁です。</p>						